



# 九条の樹

東久留米「九条の会」ニュース 第45号  
2013年6月発行・東久留米「九条の会」  
代表者 古田足日・連絡先 鈴木Tel.042-473-9489  
http://members3.jcom.home.ne.jp/higashikurume9/  
メール:higashikurume9@jcom.home.ne.jp

## 日本国憲法 第9条

- ① 日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。
- ② 前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。

## 戦争ぜったいやだから！ 日本国憲法9条を守り、生かす

### 戦争の反省ないものに 憲法を語る資格はない

東久留米「九条の会」8周年にあたって

#### 「従軍慰安婦は必要だった」

橋下大阪市長がこう発言しました。この発言にはアジアだけでなく世界中から批判と驚きの声が上がっています。女性を男性の欲求解消の道具と見る人権意識の欠落だと言う批判と、従軍「性奴隷」制度を肯定することは、先の旧日本軍による侵略戦争そのものを肯定していることになる、という批判もあります。

#### 「侵略であったかどうかは

#### 後世の歴史家が決める」

自民党の安倍首相は国会で問われて、「旧日本軍の中国などとの戦争が侵略であったかどうかは後世の歴史家が決めること」と答弁しています。そしてA級戦犯が祀られている靖国神社への参拝を

行っています。これに対してもアジアと世界各国から批判の声があがっています。

橋下氏と安倍首相に共通しているのは、日本の行った過去の戦争に肯定的であること、そして戦後の世界の政治の出発点である平和と、民主主義を理解せず憎んでいることです。

#### 憲法が生まれた背景

二つの世界大戦を経験した世界の人々は、戦後の国際政治を進めるに当たって侵略戦争と軍国主義を否定し、植民地の独立、各国の人々の人権の尊重、平和と経済の発展などを基調とすることを出発点としたのです。国連を中心に世界人権宣言や子ども、女性、障害者などの権利を宣言し、各国政府に対し弱い立場の人々が平和で幸福に生きられるよう努力するよう求めたのです。こういう世界政治の流れの中から日本国憲法も生まれたのは常識です。

日本国憲法は平和、民主主義、国民の権利を高らかにうたっています。

#### 憲法は国民の手で守る

橋下氏と安倍首相に共通するのはこの日本国憲法を敵視し、「憲法改正」を主張していることです。

日本の過去の戦争に対する評価もできず、反省もない。そういう人たちが戦争の反省から生まれた憲法の価値が理解できないのは当然でしょう。

この人たちのたくらみを打ち砕く事を憲法は国民の義務としてわたしたちに求めているのだと思います。

まずは選挙でこの人たちに投票しない事です。

そして東久留米「九条の会」では「憲法改定反対」の署名活動を始めていますのでご協力ください。

東久留米「九条の会」

事務局 鈴木信太郎

# 福島に行つてきました

― フクシマが教えてくれた生きる意味と私たちの課題 ―

福島県九条の会が「福島においていただいて、その惨状を“我がまなざしで確かめて”いたきたい」と『東日本大震災・原発被害現地視察』を全国の九条の会に呼びかけていることを知り、西部九条の会の世話人会は「とにかく自分たちの目で見てみよう。その結果で大きな取り組みにするかを検討しよう」と話し合い、7人で5月29日～30日に福島に行つてきました。

一日目は福島第1原発からおおよそ30km圏内にある浪江町を中心に訪問しました。請戸地区は海岸線にあり津波の被害は甚大でした。74戸の世帯がすべて被災し、62人が亡くなったそうです。海岸沿いに原発が見える



請戸地区は震災から手つかずのまま。遠くの林の向こうに、福島第1原発が見える。

地区ですが、現在は0.1マイクロシーベルトほどの低い放射線量です。それでも2年過ぎた今でも横倒しになったトレーラー、傾いた家具や生活の匂いがする品々がそのまま残る家々など、津波の爪痕が残り、時が止まっているかのようでした。反原発

の活動を続けてきた志賀さんはご自宅の中まで案内を終えた後「そばを通つてもいつもはつらくて中には入らないんだ」と話されました。幸い家族は無事だったようですが、漁師だった生活は一変したそうです。復興は見えず、「民も土地も捨てられた」という印象が深く残りました。

福島駅で0.1程だった放射線量が4.3マイクロシーベルトになり



吉沢さん(左)と 希望の牧場 ふくしま

入り口の看板



驚いていると、『希望の牧場・ふくしま 浪江牧場』に到着しました。牧場の入口には「決死救命、団結！そして希望へ」とスプレートの文字。350頭の牛が放牧され、子牛も生まれています。売れないからと餓死させたり殺処分したりはできなかつた。人の手によって生かすことでこれからの保全管理や研究に役立てる第3の道を示

することができているのではないかと希望をもっている。「このままの日本が続くのか、ドイツのように原発なしに向かうのか、今年は今念場です」と自らも被曝しながら牛たちとともに生活している吉沢正巳さんは語ってくれました。牧場から見える送電線は、今も福島で作られた電力を東京に運び続けています。申し訳なさでいっぱいになりました。

二日目は、相馬市の仮設住宅で飯館村から避難生活をされている自治会長さん、飯館村役場では佐藤八郎議員からお話を伺いました。飯館村は「ままでの村」、日本で最も美しい村として有名でした。原発から30km以上も離れているのに、原発事故後放射線量が高く、避難命令が出ています。現在は特別養護老人ホームで暮らす人々と、8つの工場で働く人たちが昼間だけ通って来ています。原発事故当時は村内には線量計はなく、放射能による汚染が強いとわか

らず、原発近くから避難してくる人々を1600人も受け入れました。その後放射能汚染が強い地域であることが明らかになり、自主的に避難していく人た



ちが出てきました。しかしその頃、多くの村民は専門家の「放射能汚染は心配しなくてもいい」と繰り返される話に惑わされ、避難するか残るかとは心は乱

れ続けたといえます。子どもたちの避難が4月13日に開始され、その後4月22日に国からの避難指示が出て、6200人のほとんどの村民は現在まで避難生活をおくっています。

大野台第六仮設住宅(飯館村)で、自治会長さんからお話を聞く。

どんな意味があるでしょうか。」との話に胸がつまりました。私たちが忘れていた震災後の壮絶な暮らしを目の当たりにして、驚きと申し訳なさを感じました。将来に対して希望をも

「最初から本当の事を知りたかった。専門家が来て安全だとか、危険だとか言っただけで、本当のことがわからなかった。何を信じたらいいのかわからなくなつた。それは今になつても変わらない」と行政や専門家に対する不満は強く、「家族は別れ別れになり、それまで子や孫に囲まれた生活をしてきた人たちが、狭い仮設住宅で寂しく暮らすことに慣れることはない。これからの生活設計が立たずにつらい。」村長は「除染をして村で暮らせるようにする」と言うけれど、75%が山林の村全体を除染することができるとは思えない。ゼネコンに多額のお金が落ちるだけの除染に

つことが難しい生活は本当に苦しいのです。私たちはこの現実を自分の事としてしっかりと受けとめ、その上で原発をなくす活動を強めていかなければならぬと思います。これからどう生きていくかを問われ、それがどう活動するかを迫られた二日間の視察でした。

草刈智のぶ(西部九条の会)



集会所には手づくりの作品がいっぱい

# キリスト者九条の会

## 講演会報告

今の状態はノーマルなものではない。ある意味では大変な状況にある。私たちは憲法を取り巻く現状を心配している。それをキリスト者に知ってほしいと思ひ、今回の講演会を、昨年の8月から準備をしていたが、昨年12月以降一段とその状況が悪化していった。

そうした背景を得て、さる4月29日にキリスト者九条の会は多くのキリスト者に今の状況を多くの機会として成美教育文化会館を会場に、鈴木怜子さん（キリスト者平和ネット代表）のお話をお聞きした。

I 改憲の危機に際して  
1条 II 元首、国旗、国歌 9条  
II 国防軍 20条 II 思想、宗教の自由 96条 II 憲法改正の手続き II なぜ今改憲か  
①安倍内閣の姿勢 ②アメリカの戦略と日本―歴史的に見ると

- ③米国の核の傘は日本を守るか
- ④米国衰退後の世界
- III 何に頼るか

①改憲により、米国と一緒に戦争が出来る国に ②超大国に頼る II 旧約の時代、イエス・キリストの時代 ③「剣を打ちかえて鋤とする」イザヤ書 II 憲法九条の理念

IV世界の主を信じ、真理に立つ  
①戦前のキリスト教会 II 戦争に協力、戦勝祈禱会 ②あくまで信仰に立つて抵抗をした人々 II 拷問で殺された牧師や信徒（朱基徹他） ③二度と「あやまち」をしない II アジア・太平洋の人々に対する約束 ④敵を愛せ II 哲学者カーノレ・F・フォン・ヴァイツゼッガーの言葉から「敵を理解するように努めること、それは彼の状況に身を置き、彼の立場から世界を見、彼の関心や希望、彼の不安や傷ついた心を知るように努めること」  
V 今、私たちが問われること  
この世の力に頼るか、神の言葉

以上の話の内容をいかつままで記しましたが、予想を超える80人もの人たちが来られて大きな反響をいただいた。これは私たち自身の関心の深さからのことだと思ふ。

当日見えた人ばかりではなく多くの人たちに、この「今」を知ってほしい。それは(或いは)自分たちの子供、孫たちが戦争に駆り出されることも起こりうるのだから。そのようになつたらどうなるか、どうするかを考へねばならないだろう。悠長なことを言つてはいられなくなつてしまう。

キリスト教徒の各教派、新旧を問わずの出席は大変に意義のあることだった。今回の話を常に心にとめて、キリスト教徒として進んで行かなければならぬと改めて思った次第である。今後もうこうした活動をして、みなさんと共に歩んで行こうと思つている。

キリスト者九条の会 岸亮夫

# 東久留米「九条の会」

## 8周年のつどい

5月25日まろにえホールで開催されました。客席はほぼ満席、370名の参加でした。ありがとうございます。

第一部のヴァイオリンとヴァイオラ二重奏は、すばらしい音色と懐かしい選曲で、心が癒されたという感想が多く寄せられました。

事務局からは憲法をめぐる現在の状況など、今が正念場であることなどが話されました。

第二部「松元ヒロ・ソコライブ」では、より磨きのかかったトークとパフォーマンス、笑いの中に今の政治の矛盾を鋭く突き、憲法前文を語るところは感動的でした。

感想がいっぱい寄せられていますので、次号で紹介したいと思います。